

飛鳥資料館のみどころ (2)

秋期特別展「古年輪」

飛鳥資料館では、毎年春と秋の2回、特別展示をおこなっています。今年度の春期特別展は「ASUKA 1/500」と題して、昨年度全国を巡回した「飛鳥・藤原京展」の帰還展を開催しましたが、秋期特別展は「古年輪」と題して、前号でも紹介した年輪年代法に関する展示を10月7日(火)から11月24日(月)の期間(会期中無休)で開催します。

当研究所で古年輪から年代を読み取る年輪年代法の研究が始まったのは、今から23年前のことです。現代の伐採木から近世、中世、古代の建築部材、さらに遺跡から出土する考古遺物の木材の年輪を読み取る地道な作業により膨大なデータが蓄積され、それを解析する研究が続けられました。その結果、今ではヒノキで、現在から約3000年前までの暦年標準パターン(年代を割り出す基準パターン)が作り上げられています。

完成したこの年輪の暦年が正確であることは、滋賀県信楽町の宮町遺跡出土柱根の年輪から読み

取った柱の伐採年代が、『続日本紀』に記す紫香楽宮の造営年代と一致したことから実証され、その後の多くの応用事例からその信頼性はゆるぎないものとなっています。

近年、年輪年代法の成果は、マスコミなどで華々しく取り上げられる機会も増えてきましたが、研究の歴史や方法など、その全体像については、まだまだ一般に理解されているとは言えません。秋期特別展では「古年輪」をテーマに、遺跡、古寺の部材資料とともに、その最新の研究成果を広く紹介します。また、特別講演会を下記日程にて開催しますので、あわせてご来聴いただければ幸いです。

(飛鳥資料館 西山和宏)

<特別講演会>

10月18日(土)午後2時より 飛鳥資料館講堂
「古寺の年輪」

元奈良国立文化財研究所長 鈴木嘉吉

11月1日(土)午後2時より 飛鳥資料館講堂
「年輪の暦」

埋蔵文化財センター古環境研究室長 光谷拓実

お知らせ

平城宮をパソコンで検索！ クイズにも挑戦！

平城宮跡資料館では、平城宮の発掘調査・研究の成果を、パソコンでも検索できるようになりました。「散策モード」「資料図鑑モード」「年表モード」など、豊富なメニューから、最新の情報を検索できます。また新たに制作した「平城京の概要 - 奈良文化財研究所の活動と成果 - 」、「発掘が明かす古代の真実 - 式部省・兵部省・造酒司 - 」を加え、合計10本になったビデオライブラリーでは、奈文研による40年余の発掘調査研究の成果をご覧いただけます。パソコン検索では、平城宮にかんするクイズも用意してあります。あなたも挑戦してみませんか！



パソコンで平城宮を学ぶ

国際講演会(関西元気文化圏参加事業)

奈文研国際研究 - アジアの考古学シリーズ -

第2回:平成15年10月18日(土)13時30分~

場所:奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂

(第3回~第4回の会場も同じ)

「近年における河南重要考古発見」

中国河南省文物考古研究所副所長 張 志清

「鞏義黃治唐三彩窯の発掘調査成果」

中国河南省文物考古研究所副研究員 郭 木森
第3回:平成15年11月1日(土)13時30分~

「アンコール遺跡の保存と活用分野における日本・カンボジアの協力について」

シェムリアップ州遺跡保護開発機構総裁

ブン・ナリット

「アンコール歴史公園内の住民と村落」

シェムリアップ州遺跡保護開発機構文化局長

アン・チュリアン

「アンコール・ワット環境教育プロジェクト」

上智大学教授

石澤良昭

第4回:平成15年11月16日(日)13時30分~

「中国朝陽北塔修復」

中国遼寧省文物考古研究所所長

王 晶辰

「中国北朝の瓦と飛鳥の古瓦」

奈良文化財研究所協力調整官

毛利光俊彦

<講演会>

平成15年11月8日(土)13時30分~

「古代建築の復原」

元奈良国立文化財研究所長

鈴木嘉吉

平城宮跡資料館講堂

(NPO平城宮跡サポートネットワーク主催)

「奈良の都を掘る - 発掘速報展 平城2003 - 」

(11月1日~21日)開催 場所:平城宮跡資料館

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2003年9月